

私は誰ですか？

日本外国語専門学校 許 美香（中国）

あなたは何人ですか。と聞かれると、私はいつも困る。特に留学してからは自分の国籍を言ったり、書いたりする機会が増えたのと同時に、私の心がざわつくことも増えた。法的な国籍は中国なので「中国人です。」と深く考えずに答えれば済む話なのかもしれないが、心のどこかでその答えに違和感を持ちながら答えている自分がいる。なぜならば、私は朝鮮族だからだ。

他の国や日本の友達に「朝鮮族」といつてもピンとこない顔をされることもある。中国は56の民族を融合した大民族国家であり、私はその中で朝鮮人の血を引く子孫である。そして、言語、文化、生活習慣、価値観は朝鮮族に違いない。

中国では中国語と韓国語を使いながら生活していた。中国の友人からは両言語使えることを羨ましがられることもあり、友人の羨望の目を密かに楽しみ、心中得意然とすることがしばしばあった。しかし、日本に留学して様々な国から来ている学生達と過ごすうちに、私は自分が朝鮮族であるということに次第に隠すようになった。韓国語は趣味で学んだ、と嘘をついた。私が両言語を話す理由について深く聞かれることを望まなかったからだ。

私は中国人としても誇りを持っている。しかし私に流れる血は朝鮮人のものであり、価値観や所属する文化も古くから受け継がれている朝鮮人のものである。

私は一体、何人なのだろうか。私のアイデンティティはどこにあるのだろうか。このような気持

ちや私のバックグラウンドを日本語クラスの友人に説明するのが面倒にさえ思い始めていた。

その頃、外国人スピーチコンテストを聞きに行く機会に恵まれた。日本語を学ぶ留学生が自分の想いを熱く語っていた。数々のスピーチの中で、とりわけ韓国人留学生のスピーチが私の心を掴んで離さなかった。彼は日本で生活する中で、自分を客観的に認識し、誇りに思う経験をしていた。彼の何気ない言葉や行動が、周囲の人達には「韓国人」の言動そのものだと思われ、理解されることを学んだというのだ。言葉一つ一つ、行動の一つ一つが、属している国を代表し、その民族のアイデンティティを表すということを認識した瞬間から彼は韓国人という大きなタイトルを胸にかけ、自分の民族性を他の人に正しく記憶されるように努力をしているというスピーチだった。彼のスピーチは私の心を震わせ、私の中である変化が生まれたように感じたことを今でもよく憶えている。

私は中国人であること、朝鮮族であることをもって誇りに思わなければならないと思った。自分のアイデンティティを言葉にして説明することから逃げてはいけなと思った。

その後、これまで避けていた話題を自分から話してみようと思い、アルバイト先の日本人に問いかけてみた。「中国人についてどう思うか」と。様々な報道によると日本人が中国人に対して悪いイメージを持っているようだったので、私はその答えを聞くのが怖かった。そして最終的には私が朝鮮族であることを説明しなければならぬかもしれないと思うと、少し気が引けた。ところが、友人は中国人に対して非常に肯定的なイメージを持っていた。そして私のアイデンティティについて卑下する気持ちは捨てて自信をもって素敵に生きてほしい、と言ってくれたのだ。友人の言葉に私は勇気づけられ、これまで朝鮮族であることを隠して過ごしてきた留学生生活がばからしく思えてきた。なぜ、私は自分に否定的で消極的なマインドをもって生きてきたのだろうか。

アイデンティティとは国籍と同義ではない。自分自身の見方や考え方の積み重ねがアイデンティティを形成する。また、第三者の視点や認識によって決定されることもある。だからこそ、私たちは常に多角的な視点で人と接さなければならぬ。その人にとって絶望的だと思っていることでも、他の視点から見れば希望だと思えることがあると言葉で伝えたい。そうすれば、自信と誇りを持って堂々と生きていける人が増えるに違いない。

今、日本には複数の文化や言語をバックグラウンドに持つ子どもたちが増えていると聞いた。おそらく、私と同じように「一体自分は何なのだろう」と複雑な想いを抱えているかもしれない。国籍や民族という枠にとらわれず、自分の価値観や信念をもって行動することで自分とは何か、自分のアイデンティティを見つけられるということを私は伝えていきたい。そして、伝える手段として日本語という道具を手に入れられたことを誇りに思う。

私は留学生生活を送るうちに、明るく強い光を放つ一つの星でありたいと思うようになった。明るい星になるために、胸を張って自分の道を力強く生きていきたい。

